

# 越谷に残る「道しるべ」ベストテン (元荒川北側編) 加藤 幸一

瓦曾根ロータリーから千間台東の陸橋入口までをつなぐ新国道の工事が、戦前から戦後にかけて行なわれ完成した。日光街道(当時の国道)の最初のバイパスである。その際に瓦曾根ロータリーに設置されたのが、今もその場に残る「里程表」(里程標)である。当時の人々の暮らしを知る上で大きな手がかりとなる。

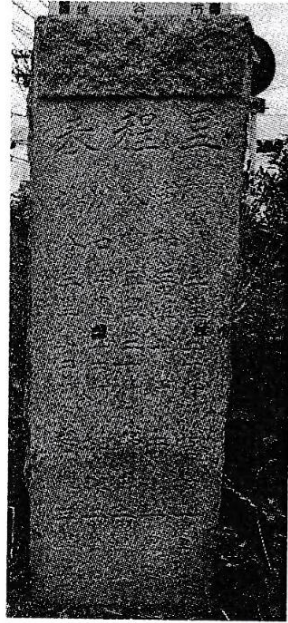


表	里	程	里
鳩ヶ谷	東京雷門	大宮	浦和
三里(十二杆)	五里(二十杆)	五里(二十杆)	三里半(十四杆)
岩槻	草加	野田	吉川
三里(十二杆)	一里半(六杆)	二里半(十杆)	一里(四杆)
		粕壁	
		二里半(十杆)	

道しるべ(道標)を念頭に調査を続けた私は、江戸時代の人々にとっては欠くことのできなかつた道しるべを二十六基見つけることができた。明治になると、他の石仏石塔と同様に多くが寺院や神社などに集められた。そのため、道しるべもそのままの場所にあつたとは言いい切れないので、さまざまな観点から考察して本来の設置場所を推測した。その中で十点を紹介する。

1. 篆書体の庚申塔

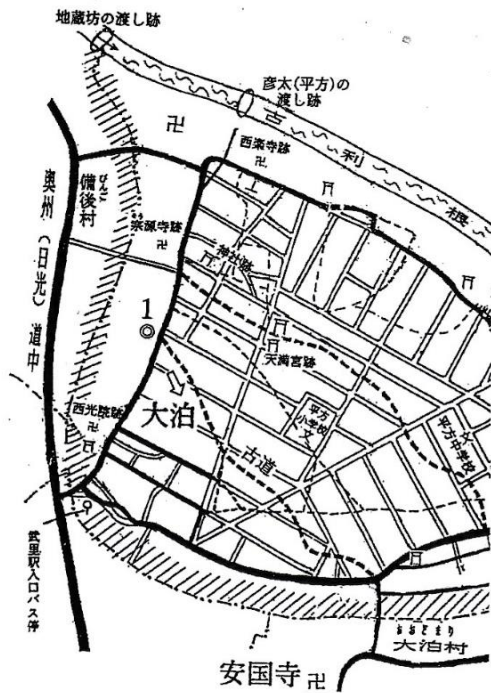
九ノ里家(平方三三二)路傍  
小島治香門  
七長寺門  
三長寺門  
小川三三三  
小川三三三  
治長寺門  
長共工  
白石平左門  
伊共工  
六共工  
寛政7.(1795)

寛政七卯年  
青面金剛  
正月吉祥日

向大どまり道

この石塔は大泊村への道しるべとなっていて、東向きに設置されている。ここ平方村より田畑を南東に突っ切って、

大泊の安国寺に向かう古道があったことがわかる。今はその道は失われていて、道しるべのみが残っている。左の地図参照。



2. 百箇所巡礼塔

**側面**

右 あかぬま  
あかぬま (赤沼) 道

左 じをん寺  
じをん寺 (慈恩寺) 道

**側面**

右 しやうない  
しやうない (庄内) 道

左 かすかべ  
かすかべ (粕壁) 道

寛政6 (1794)

大塚家(平方二〇二)邸内

天下泰平 殺父 向(こ)いや  
 西國百番大願成就  
 園土安全 塚家

3. 庚申塔

東西の道も古道である。東方には赤沼の渡し、西方には平方村山谷の香取社に至り、さらに粕壁や慈恩寺に通じていた。大塚家の北には南北の平方・東京線、さらに北には東西の野田・岩槻線の県道がそれぞれあるが、新しく作られた道路である。

この石塔は大塚家邸内に移されている。元は大塚家敷地内の北西角地の道路側にあつた。この地点から南方に向かう古道が江戸道である。南下して、中世に流れていた会の川を横断する土手道(船渡締切土手)を通つて次の十字路で西に進み、観音堂や安国寺の脇を通つて千間堀(新方川)に架かる念仏橋を渡り、日光街道に合流し、江戸方面に通じた。全体地図1参照。



**側面**

南 こしがや  
こしがや (越ヶ谷) 道

**側面**

西 の  
西の道 (野道)

文化3 (1806)

此方少行 北かすかべ道

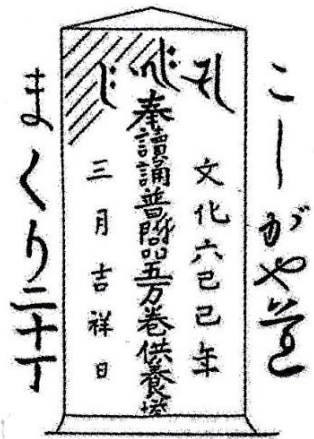
庚申

この石塔は、現在は北川崎の聖徳寺参道に設置されている。本来は、大杉一〇三の杉野屋商店の北隣りの丁字路角地にあつたと思われる。

北に進むと前述の2の石塔まで至り、そのまま西に向かうと粕壁に通じていた。杉野屋商店の南地点から西に向かう古道が今でも見られる。野道である。南に進むと古利根川にあたり、古利根川沿いの土手道を進み、野田道に合流し、大沢の日光街道に通じる。

この石塔の表面

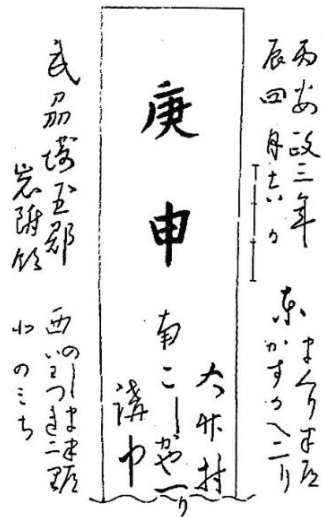
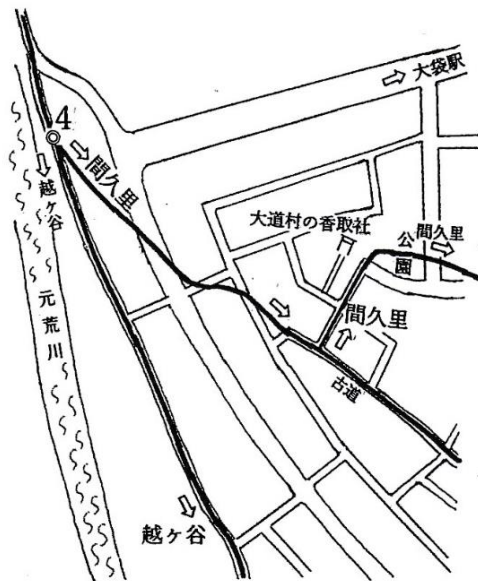
の上部には日月が左右に刻まれ、下部には見ざる、聞かざる、言わざるの三猿が見られる。庚申塔である。  
4. 普門品供養塔



こしがや道 (越ヶ谷)  
文化六己巳年  
奉読誦普門品五万巻供養塔  
三月 吉祥日  
まくり二十丁 (間久里)

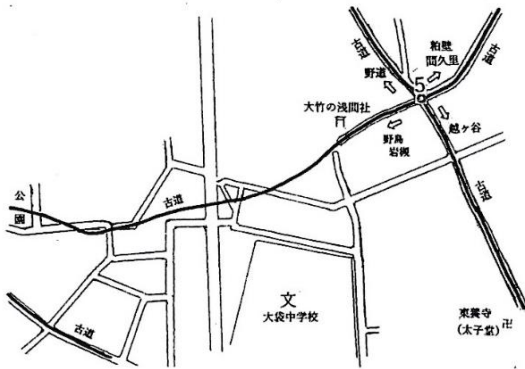
文化六(一八〇九)年の普門品供養塔である。両側面に道しるべが刻まれている。元荒川の土手ぎわに現在はあるが、本来は下の地図で示したように追分(分岐点)の地点に北向きにあつたものと思われる。元荒川沿いの道は越ヶ谷方面に通じ、もう

一つの東側の道は間久里(上間久里・下間久里)に通じ、大道の香取社東脇や公園を通過し、袋山の周囲を流れた古川沿いを進む。(全体地図2)  
5. 庚申塔



安政3 (1856)

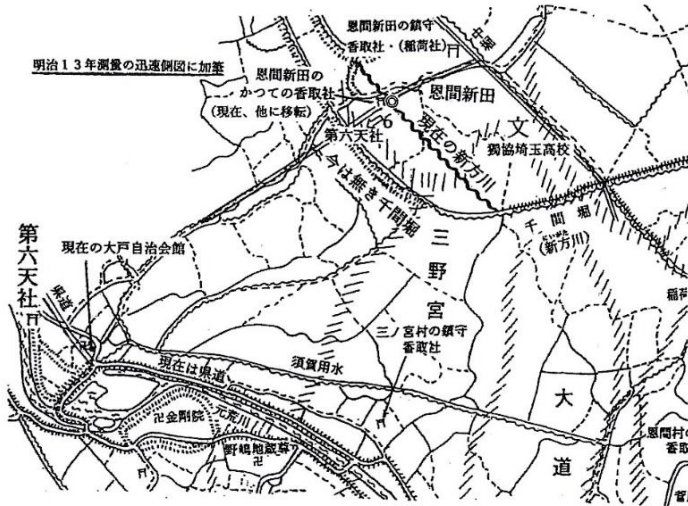
間久里道（岩槻道）は、元荒川沿いの大道にある4の追分より始まり、大道の香取社そば、大竹の浅間社南側を通過して進み、太子堂から来る古道と交わる。この地点にこの石塔が南向きにあったと思われる。更に北東に進み、最終的には上間久里の香取社の南側を通過して日光街道に合流する。（全体地図2参照）



丙	安政三年	東	まくり半道 (間久里)
辰	四月吉日		かすかへ二り (粕壁)
			大竹村
庚	申	南	こしかや一り (越ヶ谷)
			講中
		西	のしま半道 (野島)
			いわつき二里 (岩槻)
		北	のミチ (野道)

武州埼玉郡 岩槻領

恩間新田に流れる新方川の上流の橋の右岸にある。明治の頃までは香取社は下図に示す場所であり、そのそばに第六天を示す天狗の顔が描かれた道しるべがある。当時、新方川はまだ出ていなかった。香取社は、現在は東方の中堀そばに移っている。大戸の第六天社へは広大な田圃を突っ切る。前方には富士山が見られる。



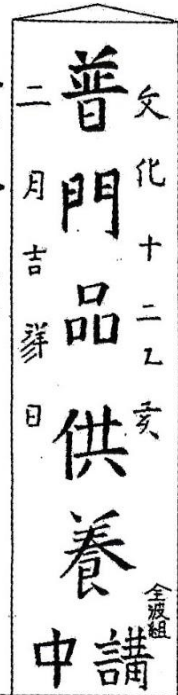
文ノ元 手八月吉日  
 是より歩み、十八丁

6. 天狗が描かれた道標石塔

文化元酉年八月吉日  
 是より第六天道  
 十八丁

7. 普門品供養塔

[側面] ひがし こやしくわんをんみち



文化12 (1815)

こやし くの ださしま

額主要心 世話人 達高

ひがし こやしくわんをんみち (東 子安観音)

文化 十二乙亥 全波組 講  
普門品供養

二月 吉祥日 中

みなみ こしがや江戸 (南 越ヶ谷・江戸)

みち

きた のださしま (北 野田・猿島)

この石塔は、野田街道沿いの前波の水神社に置かれている(全体地図1参照)。本来はすぐ近くの丁字路の地点に南向きにあったと思われる、東に進むと子安観音が祀られている林泉寺にたどり着く。南は日光街道の越ヶ谷、北は古利根川を渡り、野田や猿島へと進む。

8. 三界万霊塔

(上部には地藏尊が描かれている)

定使野共同墓地



寛延4 (1751)

の だ ほう し 花 乃

等II塔

ふとう道 (不動)

右 ころしがや道

三界・・・等

左 さしま道

の だ ほう し 花 道

(野田・宝珠花)

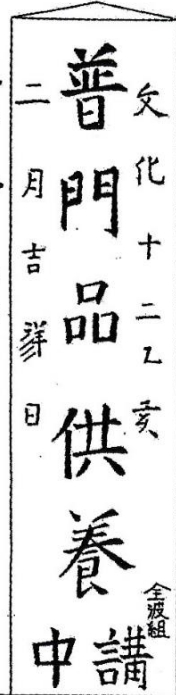
この石塔は定使野橋の南方、宮野橋南七十メートル先、千間堀右岸の共同墓地「宝珠庵」の道路側にある(次の9の地図参照)。本来は野田街道の「かけい(掛樋)堀」の角地に西向きにあったと推定。現在の定使野橋から北に百メートル進んだ地点である。この石塔があったと思われる地点の道路反対側の逆川には前波土橋が架かっていた。江戸時代には、この土橋に逆川の右岸にあった用水を、左岸の「かけい堀」に流すための懸樋が備え付けてあったのであろう。野田街道から「かけい堀」沿いに百メートル入ると、9の大相模不動尊の道しるべ付きの庚申塔に出会う。一方、野田道を右(南)に進むと越ヶ谷や同じく大相模不動尊に、左(北)に進むと野田・宝珠花や猿島に通じるのである。

7. 普門品供養塔

[側面]

ひがし こやしぐわんをんみち

増林前波の水神宮



文化12 (1815)

こやしぐわんをんみち

額主要心

世話人 遠藤

ひがし こやしぐわんをんみち (東 子安観音)

文化 十二乙亥 全波組 講  
普門品供養

二月 吉祥日 中

みなみ こしがや江戸 (南 越ヶ谷・江戸)

みち

きた のださしま (北 野田・猿島)

この石塔は、野田街道沿いの前波の水神社に置かれている(全体地図1参照)。本来はすぐ近くの丁字路の地点に南向きにあったと思われる、東に進むと子安観音が祀られている林泉寺にたどり着く。南は日光街道の越ヶ谷、北は古利根川を渡り、野田や猿島へと進む。

8. 三界万霊塔 (上部には地藏尊が描かれている)

ふとう道

定野共同墓地



寛延4 (1751)

のたぼうし花乃

等II塔

ふとう道 (不動)

右こしがや道

三界・・・等

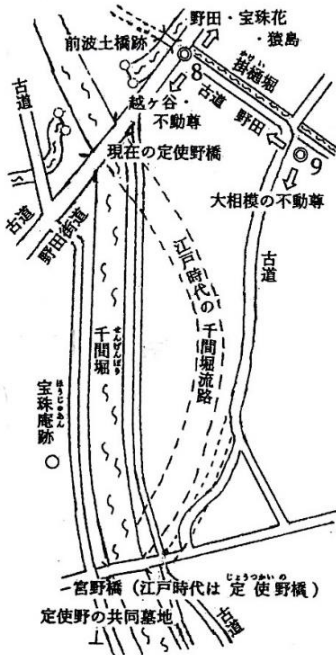
左さしま道

のたぼうし花道

(野田・宝珠花)

この石塔は定使野橋の南方、宮野橋南七十メートル先、千間堀右岸の共同墓地「宝珠庵」の道路側にある(次の9の地図参照)。本来は野田街道の「かけい(掛樋)堀」の角地に西向きにあったと推定。現在の定使野橋から北に百メートル進んだ地点である。この石塔があったと思われる地点の道路反対側の逆川には前波土橋が架かっていた。江戸時代には、この土橋に逆川の右岸にあった用水を、左岸の「かけい堀」に流すための懸樋が備え付けてあったのであろう。野田街道から「かけい堀」沿いに百メートル入ると、9の大相模不動尊の道しるべ付きの庚申塔に出会う。一方、野田道を右(南)に進むと越ヶ谷や同じく大相模不動尊に、左(北)に進むと野田・宝珠花や猿島に通じるのである。

9. 庚申塔



野田街道から「かけい堀」沿いに入った百メートル先の十字路の南東角地に、庚申塔が西向きに安置されている。これは大相模の不動尊の道しるべを兼ねた庚申塔である。石塔自身を基準にして右（西方）はすぐに野田道に合流し、左（南方）は不動道である。この不動道を南に進むと、途中から今と違って東凸に流れていた千間堀沿いの道になり、そのまま現在の宮野橋（江戸時代はここが定使野橋）を渡って野田道に合流するもう一つの不動道であった。



嘉永7 (1854)

右	庚申塔	左
のだみち		ふどう道

10. 白山権現塔



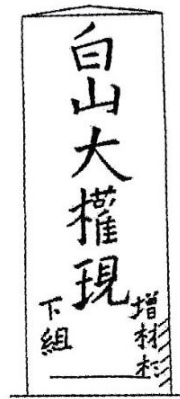
天保9 (1838)



白山権現の祠にある石塔

この石塔は、増林の県道平方東京線の「越谷リハビリケアセンター」の東四十メートル先にある古利根川に通じる路地と、平方東京線の交わった角地に西向きに設置してある。ここが白山神社の入口である。石塔の側面には「是より内、ごんげん（白山権現）道」と刻まれている。六十メートル進むと左側に白山神社（祠）がある。

是より内ごんげん道



明和8 (1771)

是より内ごんげん道	白山大権現	増林村
	下組	

# 全体地図1 (道しるべ: 2・3・7・8・9・10)

## 参考文献

参謀本部陸軍部測量局が明治十三年に測量した  
 「二万分一迅速測図」の  
 『越ヶ谷駅』『粕壁駅』『岩槻町』『流山村』  
 文政十一年(一八二八)成立の「新編武蔵風土記稿」  
 明治九年(一八七六)刊行の「武蔵国郡村誌」



# 元荒川北側編 越ヶ谷市内の古道



